

| | | | | | | | |
|------|------------------|--------|-------|------|---------------|---------------|------|
| 団体名 | 一般財団法人東北多文化アカデミー | | | | | | |
| 事業名 | 多文化キッズプロジェクト2018 | | | | | | |
| 実施期間 | 平成30年5月～平成31年1月 | | | | | | |
| 場 所 | 宮城県、岩手県 | | | | | | |
| 参加者数 | 外国人留学生 | その他外国人 | 日本人学生 | 地域住民 | スタッフ 大学関係者 | その他 (来場者等) | 合計 |
| | 26 | 3 | 32 | 34 | 6 | 1 | 102名 |

<実施内容>

外国にルーツを持つ子どもたちが増えてきています。外国籍で日本に来たばかりの子どもたちもいます。日本国籍、日本生まれの子どもたちもいます。東北地方の各地に散在し、同じ境遇の子どもたちと出会う機会はほとんどなく、日本の小・中学校で日本人の子どもたちと勉強しています。日常会話には不自由しなくても、教科の学習に必要な日本語を十分に習得していない場合が多いです。家庭で話す言葉が日本語ではない子どももたくさんいます。一方、東北地方には大学や大学院で学んでいる外国人留学生も数多くいます。滞在が長期化しても日本人学生とまじりあう機会があまりない学生もいます。

留学生と日本人学生に接触の機会を提供し、ともに勉強会を行い、それぞれの思いを持って外国にルーツを持つ子どもたちと合宿を行いました。自然の中で遊んだり、学校の宿題を持ち寄ってきた子どもに勉強を教えたりしました。最初留学生は自分より日本語が上手な子どもたちを教えることに躊躇していましたが、子どもの母語を使うことで子どもの顔がぱっと輝くこともありました。この合宿では子どもたちが主役でした。留学生は自分の今の境遇や未来の展望を子どもたちに重ねることもありました。

地域の支援者、大学等で学ぶ留学生、日本人学生、散在する子どもたちがお互いを知り合い、お互いに関心をもつことが、これからの多文化社会にとっても必要なことだと再認識したプロジェクトでした。これからもこのプロジェクトを継続して行きたいと思っています。

<記録写真>



支援者の話を聞く留学生と日本人学生 留学生と子どもたちのコミュニケーション 体を使った活動に大喜び

<参加者からのコメント>

| | |
|--|---|
| <p>●P.E.さん(ロシア)/(Russia) 両親の国籍と違う国で育つ人のアイデンティティについて考えるきっかけになりました。自分の中で流れている外国人の血を否定している子供はたくさんいると思いました。(略)とにかく、日本の状況は徐々に改善しつつあることうれしくなりました。</p> <p>●K.S.さん(韓国)/(Korea) 日本に住んでいる外国の子供たちのためにこんな役に立つ活動が行われていて嬉しかったです。留学生として外国生活がどのぐらい大変かわかっているため良かったと思いました。</p> <p>●C.G.(台湾)/(Taiwan) 子供たちはめっちゃ元気だ！留学生活、さらに人生に大きな影響を与えてくれた！その思いをずっと大切にしようと思う！</p> | <p>●L.I.(中国)/(China) ひさしぶりに子供と一緒に遊みますので本当にたのしかったです。自分も若くなるの感じ、自分もいつか父さんになるはずから、子供と遊ぶことはいい経験になる。</p> <p>●S.T.(日本)/(Japan) 参加するまでは上手くやれるか不安だったが、実際には子供たちと一緒にレクをしたり雪遊びをしてとても良い経験ができた。勉強をおしえるのも良い経験になったし、もっと子供たちと上手にやりとりできるようになりたいと思った。</p> |
|--|---|